AOCR2025 に参加して

信州大学医学部医療データサイエンス講座　山田　哲

この度は日本医学放射線学会国際交流委員会委員の一員として 23rd Asian Oceanian Congress Of Radiology (AOCR) & 77th Annual Conference of Indian Radiological and Imaging Association(IRIA) において JAPAN-IRIA Joint symposium - GIT Imaging の講師として派遣いただき，誠にありがとうございました.

私の担当いたしましたセッションでは，日本から私を含めました 2 演題，インドから Dr. Prof. Raju Sharma の「Tuberculosis Versus Crohn's Disease Conundrum: Role of Imaging」，Dr. Prof. Anuradha Chandramohan の「Contribution of imaging in the management of peritoneal malignancies」の 2 演題，合計 4 演題の講演がありました．いずれも多彩な画像を駆使した臨床に即した内容であり，200 人規模の聴衆の大半を占めていたインドからの参加者が熱心に聞き入っていたことが印象的でした. 会場は Chennai Trade Center 内に臨時パーティションで隔てられた特設会場でしたが, Silent Room として参加者は全て受信機とヘッドフォンを着用し，隣接会場に音声が漏れないような工夫がなされていたことは, 日本の学会でも大いに参考にすべきものと思われました．日本の学会との違いとしては，ネガティブな面としては演題抄録やスライドがオンラインで参照できずに興味ある演題の事前検索や事後参照が困難であること，ラン

チョンセミナーがなく食事のための時間確保が必要であることなどがありました．これらの点は日本医学放射線学会ではいち早く取り入れられており普段当たり前のように感じておりましたが，改めてその素晴らしさを実感することができました．一方で日本の学会には無いポジティブな面として．学会会期中無償でフードコートが開放されていること，毎日・毎晩，無償のソーシャルイベントが開催されていることなどは学術的というよりも国際交流としての学会の魅力を大いに高めるものであると感じました．これらはインド特有の文化・習慣の所以なのかもしれませんが，私も学会提供の無償ツアーに参加しインドの日常や文化に触れつつ世界各国からの参加者とざっくばらんな国際交流の機会を持つことができたことは今回の AOCR に参加したことならではの貴重な経験と感謝しております．世界最大の人口を有し，まさに発展途上にあるインドを肌で体感できたことは，今後の自身の放射線科医としてのありように大きな影響を与えてくれるものと感じました．日本医学放射線学会としましても多くの若手放射線科医がこのような機会に恵まれるよう，魅力的なプログラムを整備できればと願っております．

2025 年 1 月 26 日

AOCR/IRIA 2025 からの帰国の途にて

025 IRIA